

東村山市民テニスクラブ協会機関紙

コートとり当番担当クラブ

10月:11月分のコート:本町A

11月:12月分のコート:東住B

12月:1月分のコート:恩多A

発行責任者 柳 利夫
住所 東村山市萩山町 5-6-26-301
Tel. 0423-95-9849
編集責任者 川村英明



柏崎戦を終えて {9月3日 柳 利夫 {9月4日

ご苦労さまでした。柏崎市のみなさん
既報(本紙79号)の通り、さる9月3日(土)午前6時
過ぎ 新潟県柏崎市のテニス選手団の一行、25名
(西川勉団長ほか役員2名、女子6名、男子16名
の選手)が 夜行列車での疲れも忘れてかのように
元気な姿で東村山駅東口にあらわれました。(当オ
の歓迎陣は15名)

一行は予定通りに駅前と市役所前で記念撮影を
すませ、朝食を摂ったのちスポーツセンターでの少時
の仮眠。午前9時から午後4時までの公式戦を
市営久米川コートで、と息もつかせない日程に
入りました。

試合の結果は9:31と、昨年のオム回太田杯争奪
戦とは全く逆で、わか東村山チームが大勝しました。

晩は6時から会場を一行の宿舎・鋸物センター
の食堂へ移し、市川市長や体育協会の田口会長ら
役員を交え、約70名が参加しての歓迎パーティが
9時過ぎまで大賑いのうちにもたれました。

翌4日は午前10時からわか東村山市民自慢のオ
ム20回秋季市民総合体育大会開会式の会場の恩多
公園グラウンドで、入場行進を含めた式典に参加。

昼食後、午後1時から3時過ぎまでは親善試合
が前日と同じく久米川コートで前座、よりハツソウ
の親睦を深めました。

引き続いては3時半から5時過ぎまでの約2時
間、スポーツセンター2階の大会議室で体操役員を交え
約70名参加の"お別れパーティー"がもたれました。

一行はその後、スポーツセンター玄関前で
記念撮影をすませ新秋津駅へ帰路につ
きました。

柏崎チームの皆さん 本当にご苦労さまでした。
また、東村山のそれぞれの役員の方々、選手
の皆さん、さらに当日をも含めいろいろと準備に
携わりお世話いただいた多くの会員の皆さん
本当にありがとうございました。

く柳、記

さきに遠征されてきました柏崎市の選手団の
オマからお便りが参りました。次にその一部を
紹介させていただきます。

大変お世話さまでした
柏崎市テニス協会 副会長 錦 栄一
この度は多勢でお邪魔いたしました、大変お世話
をありがとうございました。

いっもながらの皆さんの人情厚いもてなしと人柄
に、はじめて参加した会員も本当に感じしてありま
した。厚くお礼申し上げます。そちらの協会会員の
オマに
くれぐ
れも
よろしく
お伝え
の程を
お願い
いたし
ます。



来年は、また多勢の皆さんでこ来柏下さ。い。
今から皆さんでお待ちしております。

無事秋季大会終わりました

今にも降りだしそうな空をみつめての試合、又
雨の降る中 足元を気にしながらと 決してベスト
コンディションとは言えませんでした。昨年と比べ
れば、なんとか試合は予定通り終わりました。
ご苦労様でした。そして優勝なされた方々、心より
お祝い申し上げます。なお詳しい結果は次号へ
譲りたいと思いますので、お楽しみに……

市民テニスクラブ創立10周年記念行事

を終わって

——まとめた雑談より—— つづき

〈記念祝賀会〉

祝賀会を盛り上げたもう一つの要素に、各クラ
ブの独自の活動があったことも見逃せない。恩多
クラブでは出し物のために練習をこつこつと
とか……

会場では市長さんが「こんなに心のこもった会
は自分の在任中に初めてだ」と涙ぐんで感激して
いたことも報告しておきたい。→ウラハ

私とテニス 阿谷宏子

テニスとの出会い。それはちょっとしたきっかけでした。高校、短大とバドミントンに打ち込み、とにかく体を動かすことが好きな私は、あの運動した後の爽やかな気分をずっと味わいたいという想いと、社会人になったら運動が遠ざかるような不安をこらえていた時、ふと市民テを紹介され早速とびついたのです。

去年の1月、初めて同年代がほとんどいない様々な年齢の人々に混じり、「続くかしら。と」いう不安を胸に抱きながら、恐る恐る何回か出るうら顔を覚えてくれたのか、ずっと以前からの知り合いのように「おはよう」「久しぶりね」など気軽に声をかけてくれる皆さん。そして技術部の親切な指導や、時には急けると叱咤激励が蘇る治気。そんな勇気なひかれ、引込思案の私も、週2回の土日の練習にはなるべく出るようになりました。がなにしろ全く初心者。今日覚えても来週には元にもどってしまうという繰り返して我ながら歯がゆい想いでした。

ある日、まだボールがまともにあたらないうまい人と試合をさせていただく機会に恵まれましたが自分の下手さが楯になく、相手に迷惑をかけたという想いで落ち込み、それ以来極端な試合恐怖症。コートにたつのが恐く、もっと力を付けてからと、うまい人の試合を見る方に専念しながら、自信がないから縮こまって余計打てない——その悪循環からのがれようと練習、練習と熱心に出たこともありまして。そのかいあってか試合に出ないとうまくなれないよ」という励ましの声にも支えられ今ではだいぶ慣れてきています。

今年の夏には、ちょっとお借りしたデカラケの軽くてとぶ感触が忘れられず、ボーナスで初めて自分のを買ってしまう程、テニスの奥深さ、おもしろ味がわかってきてうまくなりたいと欲も出てきた最近です。一方で、学生のとまじりに集中してできないのだからとのんびり構えている部分もあります。楽しく続けたいと思います。

「この一球は絶対無二の一球なり」を頭に、出逢った一球に心をこめて打とうと思ってきた此頃までのまだひよこの私ですが、よろしくおねがいします。



ー〇〇〇ーつづきー〇〇〇ー

<マーク選定>

〇 選考段階で10種類以上の応募があり、8名の委

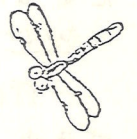
員で選定にあたった。全員の満足というわけにはいかなかった。最終的に絞られた段階で、デザイン配字を西原正道さん(恩多ク)が徹夜で描いてくれたり、業者の製品の色の感じが注文と違っていて作り直しさせたり、いろいろ苦労はあった。

〇 会員に配布した結果からみると、まだ皆さんに「愛用されていないなあ」というのが奥感で、ちょっと残念。(もっとも、各人が1枚しかないこと、どこにつけるか迷っていること、サイズなど「付け易さ」の意見もあったが、これらを考えて今後の対外試合の際の意義が強調された。

<記念試合>

〇 後日譚だが、他の種目のクラブの方が市民テのマークをみて、自分たちのクラブでも作りたいたい感想をもらっていたとか。合宿や定期練習で定着するよう協力をお願いしたい。

〇 当初、個人戦を計画したが、天候の事情で大幅に変更する結果となった。結果的にはハンデ制と総ポイント制による初めてのクラブ対抗戦になった。普段の練習で見られない顔も多く参加し、縁遠くになっていた人がまた身近な仲間になった面や普段は試合ができないだけに「励み」をつくった面もあり、部内対抗戦さやる意味も奥感された。



<記念植樹>

〇 ネウの樹の雄1本と雌3本を米沢行夫さん(本柳)宅にすでに育ててあるが、「地主さんと関係」で難しいことを痛感している。その他諸般の事情からんで、植樹だけが実施されていない。この件は「会長預かり」になるだろう。

<市民テのあり方に留意して>

〇 記念行事の企画、とみくみは全体としてはうまくいったと思うが、時間的にはかなり無理な面があったし、何人かの方にかかなりの負担をかけてしまい、会員の参加状況をもっと広げられなかったという問題が残る。この経験を生かして、いっそう広範囲な参加を呼びだせるような組織運営を日常的に実践していくことが大切ではないだろうか。

〇 コートの確保と整備、定期練習、活動日誌の記録など、みんなが誇って自主的、主体的にやれるような状態を組織的に創り上げ、つぎを担っていくことが重要だ。

〇 会員の主体的なエネルギーをどこまで引きだせるかを組織運営の要にすえて、みんなが安心して「裏方」をやっているようなクラブとして一層成長させたいものだ。

出! 柳利夫、儀自道、武谷直也、笹野井孝之、席! 長井庸二、米沢行夫、青山秀六、河野宏子、若! 石黒安子、川村英明 の諸氏でした